

名古屋芸術大学
NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS

親子で考えたい 芸術と これから



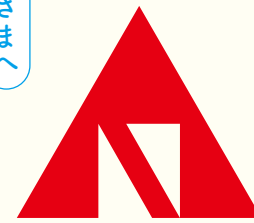
question

かえる は
どこに
いるでしょう？



クロード・モネ(1840-1926年)『睡蓮』

何が正しくて、何が間違っているか。



名古屋芸術大学
NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS

親子で考えたい 芸術と これから

かえる が いる



A

answer

大人が
《睡蓮》のなかに
発見できないもの

いま水にもぐっている

岡山県にある大原美術館で、
4歳の男の子がモネの《睡蓮》を指差して、
こんな言葉を発したことがあったそうです。

じつをいうと、この作品のなかに「かえる」は
描かれていません。
その場にいた学芸員は、この絵の中に「かえる」が
いないことは当然知っていたはずですが、
「えっ、どこにいるの」と聞き返しました。
すると、その男の子はこう答えたそうです。

男の子は、「自分だけのものの見方」で
その作品をとらえて、
「彼なりの答え」を手に入れています。

※表紙から4ページは『13歳からのアート思考』
(末永幸歩氏著・ダイヤモンド社発行)から抜粋し、
一部変更したものです。

Q

question

「アートである／アートでない」の
どちらかに仕分けしてもらいます。
「アートである」と思うものに
丸をつけてください。



01 彫刻
ピエタ
(ミケランジェロ)



02 絵画
モナ・リザ
(レオナルド・ダ・ヴィンチ)



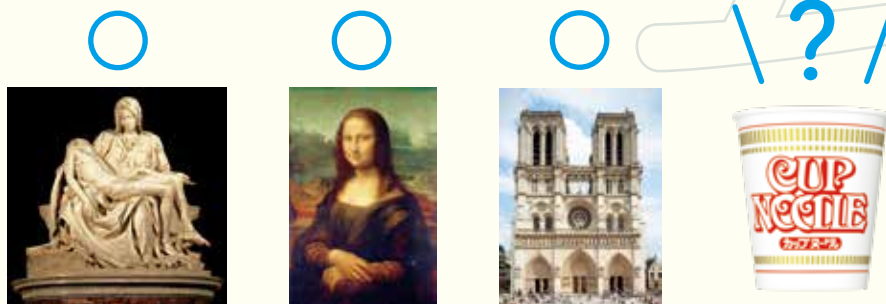
03 建築
ノートルダム
大聖堂
(Photo: Peter Haas)



04 大衆商品
カップ
ヌードル
(日清食品)

アートの枠組みは、 自分でつくってしまっている。

ある中学生の答え

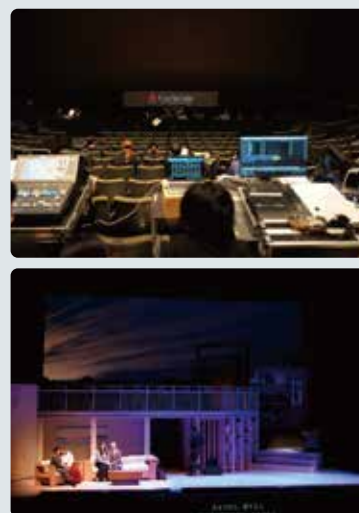


このエクササイズで最も多くの人に共通していたのは、
「カップヌードル」を「アート」の側に仕分けた人がほとんどいなかった点です。
あなたはどうかだったでしょうか？
このときに引いた境界線こそが、
みなさんのなかに潜在的にある「アートの枠組み」です。
でも本当にそうなのでしょうか……？

芸術への触れ方は、 もっと自由に、寛容に。

演劇などの作品づくりでは、人の動きや感情に着目します。
それによって日頃から新しい物の見方ができるようになります。
新しい発見に触れることで、楽しみが増え、人生の可能性も
広がってくれる。これが芸術の良さです。諸外国は価値観が
多様で、異なる文化を受け入れています。これは新しいものに
触れているからで、日常に笑顔が多く、楽しんでいる人が
多いように映ります。ぜひ寛容な心で芸術を受け入れ、新しい
発見を楽しんでほしいと思います。

舞台芸術領域 教員より



このほかにも“アートの見方”が
分かるエクササイズ多数。
つづきは、
←こちらの書籍をご覧ください。

『自分だけの答え』が見つかる
13歳からのアート思考
末永幸歩氏著・ダイヤモンド社発行

正解のない「VUCA」の時代、 という前提。

主にビジネスシーンで使われる「VUCA（ブーカ）」という言葉。
「Volatility（変動性）」「Uncertainty（不確実性）」
「Complexity（複雑性）」「Ambiguity（曖昧性）」という
4つの単語の頭文字をとった言葉で、「目まぐるしく変化する
予測困難な状況」を意味します。
「正解のない時代」という前提を生き抜くため、これからは
複合的・多層的な学びと視点が必要になっていきます。

「STEM教育」に 「Art（芸術）」が追加。

教育業界だけでなく一般社会でも耳にすることが多くなった
「STEAM（スティーム）教育」。元々は「Science（科学）」
「Technology（技術）」「Engineering（ものづくり）」
「Mathematics（数学）」という4つの単語の頭文字をつな
げた「STEM（ステム）教育」だった概念に、「Art（芸術）」が
追加されました。
いまアート教育が改めて注目されています。

美術は、 世界のいろいろな 事柄の窓や鏡。



美術だけを勉強していても、その作品の外に広がっている世界や社会を
理解していないと、その作品を鑑賞できません。作品を理解するためには、
社会を知ることが必要ですし、美術以外のいろいろな分野に興味を持つ
ことが大事だと思います。今この時も、環境問題、政治や戦争など、世界中が
厳しい状況にあり、社会が複雑になっています。そんな中で作られた作品に
ついて考えることや、クリエーション全般に対して敬意を持つことも感じて
ほしいですね。いろいろな見方のできる人や、芸術を学んでさまざまなカタチで
社会にかかわる人が大学から出てくるといいなと思っています。

美術領域 教員より

（ どうする！？ 進路選択。 ）

“替えが効く”芸術大学へ。
多様性の40コース

お試し期間の

「ファンデーション」

本学は「2学部5領域40コース」を擁し、学生それぞれの志の実現
に向けて学び合い、切磋琢磨できる環境があります。
さらに「ファンデーション」という、1年次にあらゆる分野をひと通り体
験する本学独自のカリキュラムを用意。頭で考えるだけでなく、主体
的に体験して自分の強みや適性を探究する習慣をつくります。

〔ファンデーション対象〕
舞台芸術領域、美術領域、デザイン領域、子ども学科

好きなことに真正面から挑戦すること。
大切なのは結果ではなく、
挑戦し続けているときに何を感じるか。
心の底からやりたいことを見つけるには、
試して、多くの人に出会うことが大切です。

アートAIにできない は、力を伸ばす。

これからの時代を生き抜く子どもたちに求められるのは
「発想力」です。そのためには常識に捉われず、大局的
に物事を考えたり、異なる価値観に触れて視野を広げ
ることです。アートはその「発想力」の源泉となります。
また、授業で行う展覧会やプロジェクトなどの共同作業
は、AI（人工知能）にはできないグループワーク力を養
います。このように、芸術大学ではこれからの社会で不
可欠な力を伸ばすことができるのです。

芸術教養領域 教員より

何が正しくて、何が間違っているか。

子が持つ可能性は無限大。
世の中に対して何ができるか、
しっかり見つける大学4年間。
では、保護者は？

子どもたちの可能性を引き出すために保護者がすべきことは、「心から信頼すること」と「待つこと」かもしれません。
信頼の反対は「管理」であり、待つの反対は「結果を求めること」。
子どもたちの能力と成長を信頼して、大学での経験を通してひと回りもふた回りも育ち、たくさんの人から信頼される素晴らしい人に成長してくれることを願って、待ち続けるのです。

保育士



小学校教諭

1

Nagoya University of the Arts.
interview

目標が変わっても
体験は生きる。
自分の心に
気づくことが大切。

元々保育士になりたくて入学しましたが、1年次の「子ども・ファンデーション」で「保育士に向いていない」ことに気づきました。そこで、保育士の資格を活用して他の職業に就こうか考えていました。

ある日、地元の小学生と関わるボランティア活動に参加していると、小学生は発想力が豊かで、接するたびに新鮮な考え方に会えることができ、それを楽しんでいる自分に気がきました。

「子ども・ファンデーション」では、子どもへの適切な声かけも学ぶことができ、現職で大いに活かされています。

Kiyohara Akane



清原 朱音さん
人間発達学部子ども発達学科
(現在教育学部子ども学科)
2024年3月卒業。現在愛知県
小学校教諭(専任)として勤務。

絵画



グッズ創作、SNS発信、
マルシェ出品、個展開催

2

Nagoya University of the Arts.
interview

様々な体験は、
考え方を広げてくれる。
分野に左右されない
“自分の商品”を確立。

小さい頃から、絵を描くことが好きでした。名古屋芸術大学に入り「アート・ファンデーション」で、日本画や銅版画、映像など様々な表現方法を体験。今振り返ると、この時に美術に対する自分の考え方が広がっていった感覚があります。

現在、マルシェでの出品や個展の開催、SNSなど様々な取り組みを行っています。

あの時の広がりや、原画に留まらず、Tシャツやトートバッグ、マスコットや日記など、複数の分野で“自分の商品”を制作することにつながっています。

Nakayama Midori



中山 みどりさん
美術領域
現代アートコース在籍

理屈よりも感覚で、
正論よりも正直に、動く。

子が持つ可能性は無限大。
世の中に対して何ができるか、
しっかり見つける大学4年間。
では、保護者は？

子どもたちの可能性を引き出すために保護者がすべきことは、「心から信頼すること」と「待つこと」かもしれません。

信頼の反対は「管理」であり、待つ反対は「結果を求めること」。

子どもたちの能力と成長を信頼して、大学での経験を通してひと回りもふた回りも育ち、たくさんの人から信頼される素晴らしい人に成長してくれることを願って、待ち続けるのです。

絵 画



テキスタイル
デザイン

3

Nagoya University of the Arts.

interview

理屈よりも感覚で、
正論よりも正直に、動く。

他人と比較するほど埋もれる個性。
ここは、自分の成長を見る場所。

デッサン未経験で入学した私。入学直後は周りのレベルの高さに不安でしたが、名古屋芸術大学の「デザイン・ファンデーション」は、そもそも目指す方向性が違う学生と一緒に学ぶ環境だったので、すぐに「他人と比較したところで意味がない」と感じました。

さらに先生方からは「上手くやろうとしなくていい」「技術的なことは後でいい」と教えていただき、「創作技術」よりも“アイデア”や“着眼点”を重点的に学びました。作品が増えるにつれて、クラスメイトの客観的なアドバイスで、いっそう自分らしさの輪郭が見えてきた気がします。ここで楽しく学んだテキスタイルの日々が、今の私を創っています。

Sato Hiyori



佐藤 陽里さん
デザイン領域テキスタイルデザイン
コース2024年3月卒業
現在 老舗ニット生地メーカーに勤務